

令和3年度 学校評価シート（自己評価）

令和4年3月

文京学院大学文京幼稚園

1. 園の教育目標

- ・誠実（いきいき元気に遊ぶ子）
- ・勤勉（いっしょうけんめい頑張る子）
- ・仁愛（やさしく助け合う子）

2. 具体的な目標や計画（令和3年度重点目標）

1. 健やかな心と体を育む。
2. 言葉による伝え合いや、体やものを使って表現する喜びから“豊かな心”を育てる。

3. 評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果	結果の理由（教員の記述より抜粋）
1 - ① 自分で自分の体を守るために必要な生活習慣を理解し、進んで行えるようにする。	B	・感染予防の必要性を丁寧に伝え、意識できるように取り組んだ。・うがいや手洗いなど、子どもはするの当たり前になっているが、なぜするのかを伝えることで大切さが分かるようになっていった。・コロナの状況によって、欠席が続く子どもは園生活のリズムが身に付かない様子が見られ、もっと配慮して接していく必要があった。
1 - ② 遊びの中で十分体を動かし、年齢に適した体の使い方を養う。	B	・「ホールで走る」などの活動をクラスで行う、集団遊びなど皆で体を動かすことの楽しさを味わうことなどを大切にした（年少）。・縄跳び・ドッジボールなどの遊びを通して体を動かす心地よさを感じたり挑戦したりできるように声をかけていった。（年長）
1 - ③ 自分の心を素直に表し、必要に応じて感情を調整する力を育てる。	B	・人の話に耳を傾けるように意識することで、話すだけでなく「受け入れる側の気持ち」を育てられるよう配慮した。 ・発言する場では、自分と違う考えがあることを知ったり、相手の思いや考えを受け入れたりする等、場に応じた切り替えができるよう援助した。
2 - ① 自ら挨拶をしようとする気持ちを育てる。	A	・保育者が手本となり、明るく声を掛け、率先して挨拶した。子どもの挨拶も認める声掛けを意識した。 ・挨拶の大切さや交わす心地よさを伝え、できた姿を認めるようにした。
2 - ② 自分で考えたことを伝えたり、友だちの話を聞いたりしながら、言葉による伝え合いを積み重ねていく。	B	・クラスで困っていること、良かったこと等を集まりで伝えるようにし、また子どもが自分の考えや感じたことを発表できるようにすることで、友達の話にも興味を持てるよう配慮した。・上手く相手に伝えられない際は、言葉を補いその場にあった伝え方を助言した。
2 - ③ 体やものを使って、自分が感じたままに表現する喜びを味わう。	A	・自分がやりたいと思ったことを存分に楽しめるように様々な材料や時間を十分に用意した。・生活の中で、自由に表現できる楽しさを味わえるようにし、保護者にも（見た目の完成度ではなく）子どもの自由な表現を大切にしていることを繰り返し伝えるようにした。

4. 教員自己評価結果及び本園の今後の課題

	項目	結果	評価結果及び課題（教員の記述より抜粋）
1	保育内容の工夫	A	・絵本を読んだ後、英語活動後などに自由に表現する、歌うことを大切に して、表現が苦手な子どもにも配慮した。・子どもが疑問に思ったことはす ぐに答えるのではなく、図鑑や絵本を見て答えを探すようにした。
2	環境構成の工夫	A	・子どもが興味を持った遊びを認めて、共感することを大切にした。自ら 考えて遊びに取り組める工夫、じっくり遊びを継続できる環境を工夫し た。・年間を通し季節や行事に合わせて、2階のコーナーや階段の壁に子ど もが表現できる場を設けた。
3	幼児への対応 (幼児の理解)	A	子どもの性格や家庭環境、発達状況などを踏まえ個々に合わせた対応を工 夫した。学年チームの教員同士が連携し子どもの情報交換をすることでそ れぞれの良さを認め合うことができた。
4	保護者への対応	B	・子どもが頑張っている様子や遊びの姿を日々伝えるようにした。個別に 援助が必要な子どもについては、保護者と相互に子どもの様子を共有し、 連携を深められるようにした。・保護者から受けた相談は学年間で共有し、 解決策を見つけていけるように取り組んだことで、信頼関係を構築するこ とができた。
5	研修と研究	A	・園内研究では「園の教育課程作成」に取り組んでいるが、教頭を中心に 計画的に時間を確保して研究を進めてきた。小グループでの話し合いを定 期的に取り入れ、3学年の発達段階の共通理解が深まっている。 ・全体では、救命救急講習、スクールカウンセラーの心理分野の研修を受 け、個人では関心のある分野の「オンライン研修」を受講することにより、 保育の資質向上に繋げることができた。
6	安全管理	A	・子ども自身が見通しをもって生活できるように危険なことはクラス全体 で意識できるようにしてきた。・「遊具点検」などを定期的に行い、危険に 繋がる故障箇所は早めに業者に修理依頼をしてきた。 ・子どもが園で生活する場のみならず、降園時に駐輪場へ向かう際に危険 がないよう、保護者への声掛けを意識的にを行い、幅広く安全管理に取り 組んだ。
7	職場環境 学年チームの関わり	B	・学年で、丁寧に子どものことや保育について話したり振り返ったりして きた。・学年内で互いのクラスの様子は保育中にも伝え合うことで理解が深 まり、他クラスの良い所を自分のクラスに取り入れることもできた。 ・学年内で、仕事内容に優先順位を付け分担して取り組むことにより、効 率化を図ることができた。(学年によっては、進め方に課題が残ったところ もあった)

○結果について

A	十分達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分でない。
D	取り組みが不十分である。

5. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者アンケートの結果と、教員各個人の自己評価から、おおむね目標は達成できている と考えられる。「重点目標」を達成するための具体的な取り組みについては、1年間意識を持 って取り組み、効果が顕著に表れていた。 ●保育内容の表現領域については、「発表会のための表現活動」、「家庭に持ち帰るための絵 画製作」ではなく、日常の中で、子どもが自然に表現を楽しめるような工夫が少しずつされ、 教員各々が楽しみながら様々な取り組みを行っている良い姿が見られた。 ●研修においては、園内研究（教育課程）が充実し、保育の質向上に繋がった。他にも教員 全体で取り組んだ研修、オンライン研修も受講し、学びを深めることができた。

6. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
●コロナ禍の保育について	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度も「コロナ禍」での保育が続いていく。園児が内容を理解した上で生活習慣に取り組むことにより、自分で自身の体を守る意識を育て、健康な体を養う必要があるため、引き続き重点目標に掲げる。 (行事の取り組み方も2年間の経験を活かして、さらに改善する)
●年齢に適した体の使い方を養う	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、「遊びの中で体を動かす」ことは、どの学年もよく行っていた。しかしながらその反面、子どもが転んで怪我をする、頭をぶつける等が多く、自分でしなやかに体を使うことに課題がある子どもの様子が見られた。この点については、再度「具体的取り組み」に取り上げるようにする。
●表現領域について、様々な取り組みをする。	<ul style="list-style-type: none"> 表現について、日常の遊びや活動の中で、体を使って表したり、ものや道具を使って描いたり作ったりするなど、意図的に取り上げるようにしたことにより、2年間で教員の意識は大きく変わってきた。 令和4年度も、保育の中で表現することの一つとして、絵の具を使って自由にのびのび描く等、多様な描画活動にも取り組んでいかれるようにする。
●幼稚園の魅力が外部の方に伝わるように様々な方法を試行する。	<ul style="list-style-type: none"> これから入園を検討する家庭に対して、文京幼稚園の魅力が伝わるように、新しい試み（「プレ幼稚園&ミニ説明会」を4回実施）を行う。他にも幼稚園に対して、どのようなニーズがあるのかを知り、可能な内容は園運営に取り入れていくようにする。
●園内研究と、個々の研修に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 「教育課程作成」は園内研究で継続して取り組んでいく。 自身を高めるための研修は、「オンライン研修」を受け、知識を深め、保育の質向上に繋げていくようにする。